「兵役拒否・平和主義・エキュメニズム」研究会

# デンマークにおける良心的徴兵拒否の歴史と現状

クリスチャン・モリモト・ヘアマンセン

①

②

③

④

**デンマークの防衛は①「軍隊」と②「緊急事態管理局」と③「ホームガード」で組み立ている。④は「良心的兵役拒否者」である。**
**①〜④の写真で御覧のように、防衛相とデンマーク国が若者に国を守る役を紹介する。写真と言葉遣いとレイアウトは明らかに①・②・③は無責任で内向き消極的なものであることを強調しているといえるでしょう（写真1と2はForsvaret 2022, 写真3と4はborger.dk 2022を参照）。**

自己紹介：わたしは、クリスチャン・M・ヘアマンセンで、1962年にデンマークで生まれ、2001年に日本に移住するまで住んでいた。コペンハーゲン大学で日本学の博士号を取得し、日本の歴史と宗教を専門としている。京都の日本キリスト教協議会日本宗教研究センターに就任したときに日本に移り、2004年に関西学院大学法学部の宣教師として招かれた。言い換えれば、「徴兵役と良心的兵役拒否」の専門家であるふりはしない。以下の論文ための筆者の唯一の資格は、デンマーク人の男性として、自分の体でデンマークを守る義務を持って生まれたというこ

とである。そこで、1981年春の18歳の時、軍隊が主催する兵役検査（Sessionという心身の健康診断）を受けた。プロセスの最後にくじをひいた。毎年、軍部は必要な新兵の数を決める。その数から16歳で可能であったボランティアの人数とその年の18歳で健康な男性の中の積極的に軍に入りたかった人数を引く。残席は、くじ番号の1から埋められた。筆者が14000何番の番号を引いた。最後にこの経験に戻る。本論の焦点は、1）デンマークでの普遍的な男性徴兵の歴史、2）1917年の兵役の良心的兵役拒否者に関する法律の背景、3）同法の使用の概要を主にデンマーク語ですぐに利用できる情報のまとめである。

**要約**

第1：1830年のフランス革命の影響で、デンマークは1831年より始まったプロセスを経て1849年6月5日に立憲君主制に変わった。プロセスの一部として、議論の上に王国の守備義務（徴兵役）は普遍的に男性にあると憲法で定めになった。

第2：徴兵役は、条件により免除が含まれていたが、1869年の修正で排除された。しかし、1917年、第一次世界大戦中、デンマークは良心的兵役拒否法を採択した。法律の原因は3つの主要な競合する歴史がある。一つは、デンマークの大多数の教会組織であるデンマーク福音ルーテル教会の多くの牧師の訴えの結果であったと強調する。一つは、主にデンマーク社会民主党の若者である「Konsekvente Antimilitarister」（絶対反軍国主義者）の抗議とハンガーストライキの結果であったと強調する。 一つは、デンマークの中立性の保護と、良心的な拒否者のための一時的な規則を実施したイギリスからのインスピレーションによる非常事態宣言に対する政治的不満の結果であると強調する。

第3：1917年以降の殆どの年では、良心的兵役拒否者はあまりいない。この事実の理由は議論されているが、体系的な落胆と非愛国的で臆病者であると拒否者への一般的な差別は多くに圧力をかけている。デンマークの軍事的な寛容は、1990年代前半にあった旧ユーゴスラビアでの戦争と2001.9.11にアメリカで行った同時多発テロを境に大きく変化した、デンマークの国境の外に軍隊が配備されている。同時に、軍事目的で使用される高度な技術により、より多くの専門兵士を獲得し、短期徴兵の訓練コストを削減することが望まれている。これらの要因は、徴兵された軍隊の目的と将来について、デンマークや他のスカンディナビア諸国での議論を後押しした（Hennings 2000を参照）。 2020年の時点で、年間の新兵の必要性は99％奉仕したい支部を積極的に選択するボランティアまたは徴兵

によって満たされ、良心的徴兵拒否者の数は年に20人もない。

## 1. 1849年に守備義務がデンマーク男性の普遍的な義務になるまでの歴史

### 750年～1050年頃

現在スウェーデン・ノルウェー・デンマークを含むスカンディナビアは、ヴァイキング時代（750年～1050年頃）に複数王の国々であった。デンマーク王の領域に住んでいた自由民も奴隷も領域守備義務があった。そして、900年以降その王はイングランドへの先制攻撃のため出かけるというLeding（レシン）[1]のことがあると、各地域に定数の舟と人と装備を王に提供する義務があった。

### Lægd 1600年代～

Lægd（レーグド）は1600年頃に導入した領土単位であった。太閤検地の［町］のように1ユニットは2000キロの大麦を生産力の基準で、平均の面積は200haであった。首都以外の各都市は1Lægdとして数えた[2]。男の子は生まれたときに、名前がLægdsrulle「Lægd巻」に登録された。兵役できなくなると名前は消された。時代によって制度は変わってきたが、1849年迄、田舎のLægdの16歳以上の男性の1／10あるいは1／5は兵役を満たさなければならなかった。残った人々は、彼らの兵役費を負担した。漁師の家や船乗りの家に生まれた男子は、海軍のLægdrulleに登録された。法律上に1869年までにLægdは単位として有効であった。しかし、その後もLægdrulle等言葉は使い続けて、1869年と1912年に改編した徴兵役法の5条は「Lægdsvæsnets Ordning forbliver indtil videre som hidtil レーグド制度はとりあえず今のまま引き続く」と定めた（Lov om Værnepligt, 6 marts 1869、Lov af 13. juni 1912 om Værnepligt 参照）。

当時のドイツほど厳しくないようであったが、レーグド制度は王をはじめとする国の権力者に生産力と武力＝税を保護する制度の重要な一部であった。

以前から王国の軍隊は傭兵でできたが、しかし1700年頃から、レーグドで徴兵された農民をLandmilitsen「田舎軍」に使われた。デンマークが関与した戦争には傭兵が使われたが、1765年には頼りにならない（忠誠心が買えない？）と判断され、廃止されてしまった。その後は、徴兵のみに頼るようになった。これは1733年にStavnsbånd制を導入したために可能になった。

Stavnsbåndは「地域の縁結」の意味で、農奴制度の一種であった。1733年以前

までに守備義務があったが、それを避けるため、または幸運を求めるために、レーグドから亡命した男子農民が多かった。新しい制度上、男性が無許可に登録したところから移動してはいけなかった。許可はPass（porte）というもので、パスポートがない者は、罰金を科された。大家や貴族の息子たちはお金でStavnsbånd から免除された。

当時のデンマーク人には福音ルーテル教会に所属義務があった。したがって、幼児洗礼を受け、堅信礼を受け、教会税を払い、そして日曜日の朝礼拝に出席の義務も負った。だから、田舎軍は、日曜日の午後に教会の広場で訓練した。その上に、年に30日のマーチ日があった、または地域を超える拡大軍事訓練に参加させた。鉄砲と火薬は教会にあった鉄砲箱を保管しなければならなかった。「雪より真白い」（讃美歌21の574）の詩で知られているデンマーク牧師ハンス･アドルフ･ブロアソン（Brorson）の息子も牧師であった。彼は、担当した教会に兵士がうろうろするのは嫌だったので、主将にその鉄砲箱を移動してもらうとした。主将の反対があったため、ブロアソン氏は司教に依頼して、司教は主将に武器を教会堂から入口に移動するよう指示をした。「なぜなら、昔から教会の入口はVåbenhus「武器家」と名付けた」（H. K. Kristensen: Ovtrup Sogn 198f. 参照）。

1788年にクリスチャン7世の政府がStavnsbånd を解いた。しかし、1849年迄に兵役は引き続き農民の男性の義務であった。町人には自分の街を守るの義務があった。農家の息子と漁師の息子は生まれたとたんにレーグド巻に登録されて、健康状態に合わせて、40歳になる頃まで記録に残された。その年齢に達する前に心身に障害を負った場合、または重大な処分を受けた場合は、登録を抹消された。

ところで、1821年クエーカーのThomas Shillitoe（1754-1836）はデンマークを訪問した。フレデリック6世（摂政1784、王1808 ～ 1839）はクエーカーがデンマークに来て定住することを望んだので、徴兵を含む彼らの信仰に合わないことをすべて免除すると約束した[3]。

当然のことながら、特定の宗派に属していなくても、徴兵されることを避けたいと考える男性もいた。その例一つとしてラース・ラーセン（Lars Larsen）氏のケースがあった。1848年にラス・ラーセンは普通の農民だった。彼は次の理由で徴兵役の免除を求めた。しかしXのために却下された。

＊老人の父の息子である訳　X = 60歳以上の父親の息子一人に限られた条件があった。兄弟一人はすでに利用した方法であった。

＊目が良くない訳　X ＝証明できなかった。実際は90歳までメガネは使ってない

＊兄弟一人が審査員でその人に賄賂を払った X= 賄賂の訳で　免除を受けなかった。

＊残った抜け道は農場を購入し、所有者として、兵役を免状されることになる訳であった。しかし農場を買うために、奥さんが必要だった。「結婚するか戦場へ行くか、疫病とコレラの選択のようだった」と曽孫 Lars Larsen-Ledet がコメントした。（Larsen-Ledet, Lars: Mit Livs Karrusel 第一巻 33 頁参照）

1848 年に徴兵法の議論があった。課題は、誰が徴兵されるべきであるか。現状のままで農民だけか、あるいは男性みんなか。この議論の背景には、ほぼ 20 年前、1830 年 7 月のフランス革命があった。 翌年 1831 年にデンマークのフレデリック 6 世王は stænderforsamlinger「地域三部会相談議会」を四つ設立の命令があった。最初の開会は 1834 年にあった。これらの議会は上記の議論に組み込まれた。そこで農民は初めて自分の意見を述べることができた。当然ながら力不足だが、農民だけが国を守る義務があるのは不公平だと強調した。同じフランス革命の影響でそのころは憲法委員会も開催し、そこでも徴兵義務の普遍を推進した。影響力の別な要因は、1848 年 3 月 24 日に始まった第一次シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン戦争だった。ナポレオン戦争以来 30 年ぶりの戦争で、デンマークの最も豊かな地域を保護するための戦争だった。それでも、今まで徴兵されてない階級の者と町人から反論があった（憲法制定会議の 1848 年 12 月 18 ～ 20 日の普遍的な守備義務に関した議論の記録　Nørgaard & Helleberg 2015　参照。）

1849 年 2 月 12 日に Loven om Værnepligt（ロー・オム・ウェアネプリックト）が可決された。直訳の意味は「守備義務法」および「護国義務法」で、所謂「徴兵法」ということである。

法の定めは：

1. 男性が14歳の堅信礼を受けてから、ルーテル教会の信者ではない男は15歳から、その人のレーグド巻に登録をしなければならないこと。22 歳になると、健康診断で健康と判断され、身長が 61 インチ（154.95cm）以上で（第 17 条）、または彼が懲役を科されてない人であれば、次の 16 年間は兵の義務があること [4]。以上の条件を満たしても、聖職者と学校の先生は兵役を免除されていること。

2. 軍の必要上、相応しい男性がいれば、抽選で役を果たさねばならない方を決める。または徴兵されていても配属されていない人は、代理人を雇うこともできること。抽選でひいた番号を、その場で自分よりも低い番号を引いた者と無償でそれを交換するのは許されること。
色んな工夫があったので、結局お金持ちがずるいという論がでた。

同じ1849年の6月5日にデンマークの憲法が有効になった。第95条は

> Enhver vaabenfør Mand er forpligtet til med sin Person at bidrage til Fædrelandets Forsvar, efter de nærmere Bestemmelser, som Loven foreskriver.
> 「すべての健常な男は、法律で定められた詳細な規定に従って、祖国の防衛に彼の身心（パーソン）を貢献する義務がある。」

と定める。現在の1953年改善版の第81条である。

「健常な男」の文言はデンマーク語の「vaabenfør Mand」の意訳である。しかし、Vaabenførの直訳意味は、「武装を使える」あるいは「武器を身に付けることができる」。したがって、健康は武器を使えるということであった。そして、健康条件を満たせば、「すべて」「男」「身心を貢献」の言葉でだれにどの形でデンマークを守備義務があるかと定めた。なお、「すべて」は、デンマークが支配したフェロ諸島、アイスランド、ヨーロッパ外の植民地のデンマーク人を除き、そして32歳未満までデンマークに住むようになった外国人を含んだ（徴兵役法の第1，2，7条）。

良心的兵役拒否の議論に憲法の定めにもう一つは重要である。

> Ingen kan på grund af sin trosbekendelse eller afstamning berøves adgang til den fulde nydelse af borgerlige og politiske rettigheder eller unddrage sig opfyldelsen af nogen almindelig borgerpligt.
> 「信仰の理由で、誰からも市民権・政治権を一部でも拒否されることはできない、または誰もその市民義務を一部でも拒否できない。」と現在の憲法70条（旧憲法の第79条）は定める。

第一次シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン戦争はデンマークが1850年に勝利した。ところで、1864年に起こった第二次シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン戦争

に負けた。今までの領土の三分の一を失ったデンマークには大きな経済的かつ精神的な衝撃であった。直接的に関係はないかもしれないが、1869年に、徴兵法の改変があった上に、教師と聖職者の特権は廃止された。一方、デンマークで平和主義運動が盛んになって、貴族と繁栄した商人を代表した保守派であったHøjre「右」という与党以外の政党はそれぞれの立場から戦争と軍の意味を議論した。各党の中でも温度差があったと思うが、繁栄して土地所有農家を代表した自由派であったVenstre「左」の一部は1870年代の前半まで、反戦論を支持した。小規模農家とインテリを代表した自由派であったRadikale Venstre「ラジカル左」は熱心に反戦論と国際法で国境を超える問題の解決論を弁明した。例えば、Viggo Hørup ウイゴ・ヘルプ（1841-1902）は、新聞記者としても、後に影響力のある新聞Politikenを1884年に創設した者としてもラジカル左の最も有名な人物の一人だった。彼は国境警備のために最小限の軍隊を提唱している。コペンハーゲン周辺にリング要塞システムを構築する提案に対して、ヘルプは「何のためか」とコメントした。

そして、工業化に伴った都市化で生まれた労働者を代表するのは、第一次インターナショナーレ（1864-73）を背景にして、1871年に登場したSocialdemokratiet「社会民衆党」であった。これも、「資本主義者の戦争に世界の労働者は犠牲にしないで」などスローガンで反戦争論した。または、ドイツの社会民主党と同様に「軍を廃止し、人民防衛団を作る」政策を強調した。（1876年の社会民衆党の第一プログラムより）。

党派を超えDansk Freds- og Folkeforbundsforening「デンマークの平和と国際連盟協会」が1882年11月28日に設立された。

この背景で信仰の上、信者が徴兵しながら特別な扱いを求める件二つがあった。1884年、デンマークの代表的なユダヤ人法学者であるウルフ博士は、ユダヤ人兵士が自分たちの宗教的に重要な祝日を守れるように陸軍大臣と交渉した。もう一件は、1890年代にセブンスデー・アドベンチスト教会の信者が土曜日（安息日）を守ることができるように戦争大臣との交渉があったが、完全免状を得られなかった。兵役検査「Session」の前に、信仰を明確にすれば、できる限り医療部や運送部などへ発遣するように大臣が、現場の責任者に要請する以外はできなかった。信仰を問わず、土曜日に参加を拒否するものは、牢屋に入ることは変わらなかった。

## 2. 良心的兵役拒否法

1917年12月13日にデンマークの国会は”Lov No. 625, Om Værnepligtiges Anvendelse til Civilt Arbejde”「法第425番徴兵を人民仕事に使えることに関して」を可決した。この良心的兵役拒否法の成立の三つの原因を紹介する。次の文書は主に，オデンセ大学院生Sven Erik LARSENの1977年論文 *Militærnægterproblemet i Danmark 1914-1967 med særlig henblik på lovgivningen.*「1914～1967年間におけるデンマークの兵役拒否の課題、特に立法に関連して」（Larsen 1977）を基にする。

デンマークの中立性を第一次世界大戦（1914-1918）の中に維持するための防衛大臣Peter Munchの政策[5]により、兵役制は不評を買った。（Larsen 1977）。1909年にほぼ十年の政治的な議論の上に得られた防衛和解の目的は、大国であるドイツとイギリス、フランスとロシア、又は直接的に関係のない米国と日本が、その中に特にドイツを苛立たせることなく、デンマークの中立性を維持することだった。それに合わせて、陸軍と海軍の人数を減らして、徴兵役時間を短くして、または連隊をコペンハーゲンからシーランド島のほかのところやユトランド半島などの新しい兵舎に移動すると海の砦を建設と決めた。軍力で国境を守るだけでいい、国際問題は国際機関で解決するという方針があった（Christensen 2015参照）。新しい防衛法に従い、又は民政における新しい基準への適応のため、1912年に徴兵役法はできた（Lov af 13. juni 1912参照）。そして1913年にRadikale Venstre（RV）の少数政党府ができて、翌年に第一世界大戦は始まった。したがって、基本的に反戦の政策と小型軍隊を求めたRVのピーター・ムンク防衛大臣は、国境を守るのをとおしてデンマークの中立性を強調するために、普段より兵を兵舎と砦に呼び寄せなければならないのであった。軍費が増えたのは当然であった。その上に、戦争は長引いたが、デンマークの軍は直接関与していないので、その兵士たちは退屈して収入が減ったから、不満が増えた。そして、イギリスは1916年に一時的に良心的兵役拒否法を制定した。これらの国内国外条件により、イギリスと同様の法律が多くの人々や政治家に受け入れられるようになった。

DANMARK | 09.12.17 KL. 00:00

**100-året for militærnægterloven: Da 491 præster gjorde det lovligt at sige nej til våben**

Den 13. december er det 100 år siden, den første danske militærnægterlov blev vedtaget efter protester fra en gruppe præster. Siden den dag i 1917 har en lang række unge mænd aftjent værnepligten ved civilt arbejde i lejre og på udstationeringssteder

Keld Nissen

**新聞1 毎日キリスト新聞 2017年12月9日 Nissen 2017を参照**

「良心的兵役拒否法の100周年：491人の牧師が兵役を拒否することを合法

にしたとき」(Kristeligt Dagblad 2017/12/9) の見出しで分かるように、キリスト教徒の活発な働きの上で、この法律はできたとの説もある。1912年に、クリスチャン・リーグ・フォー・ピースが制定されたNissen、2017年を参照)。

偶然だったが、1914年は、デンマークにとって第二次シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン敗戦の50周年記念の年であった。記念するグループもあったが、社会民衆党の若者はその機会を利用して反戦運動を強力しようとした。しかし、第一インターナショナーレ以来、「労働者は資本主義の戦争とは戦わない」という立場をとってきた母体の社会民党には、大きな打撃が与えられた。ドイツの社会民衆党がドイツ帝国の軍と軍費を支えるように政策を変えた影響で、デンマークの社会民衆党もデンマークの中立性を守るために軍備は必要だと認めるようになった。しかし、党の若者の中で元の立場を守ろうとするKonsekvente Antimilitarister「絶対反軍国主義者」というグループを1915年に立ち上がった者がいた。人数が少なかったけれども、メディアのアテンションを引いた形で兵役に反対した。

まず彼らは呼ばれても兵役検査（Session）に行かなかった。決まっている形で警察に無理やり連れられて兵役への適度診断をうけさせてから、軍用の刑務所に入った。軍と全く関わりたくないので刑務所ではハンガーストライキをして、体がすこし弱ると、病院に運び、元気が戻るとまた刑務所に入れた。刑務所と病院の往来を半年ぐらい続けて、最終的に軍から排除された。軍の病院に入院させられたので、そこでハンガーストライキを続けた人もいた。Larsen 1977は、何よりもこの反対運動は、市民の中でシンパシーを得たので、政府とほかの政党はその反対運動を無力にしたかったために、良心的兵役拒否法を作ったと論じる。または、

Til Protest
mod
den civile Værnepligt!!!
Tirsdag den 11. ds., Kl. 8, afholdes stort offentligt
Protestmøde
i „Folkets Hus", Jagtvej 69, hvor
Redaktør Chr. Christensen samt
Militærnægterne Th. Thøgersen og Niels Johnsen
vil komme til Stede og tale.
Enhver klassebevist Arbejder maa møde op og være med i Protesten mod de politiske og kapitalistiske Partiers Forsøg paa Indførelse af Stateslaveri for den arbejdende Klasse!
Agitér for Tilslutning!
5 Øre.
Foreningen for konsekv. Antimilitarister.

Poster 1　軍事的ではない守備義務に反対（1917年4月）絶対反軍国主義者会の抗議集会チラシ。Foreningen for konsekvente Antimilitarister. 1918.

この政策は採用される前にあった議論で絶対反軍国主義者の反発があったが、採用されてから絶対反軍国主義者の運動が消えた現象で政策が成功したと判断した。

Lov om værnepligtens opfyldelse ved civilt arbejde（Militærnægterloven）

軍事的ではない仕事（奉仕）で守備義務を果たす法（良心的兵役拒否者の法）

1917年12月13日に採択された法の言葉遣いは重要だと思う。「守備義務を果たす」はどんな男性にも果たさないとならない「守備義務」があるのが前提で、「civilt」の「シウィル」は形容詞「市民的」の意味もあるが、この場合は「軍事ではない」の意味で使っている。「arbejde」は仕事ということである。本来ならば、「軍事と関係ない仕事」なら、いろんな仕事は考えられるが、実際的にあと二つか三つ条件があった。一つは、誰でもすぐできる仕事でないといけなかった。一つは、民間の企業と競争にならない政府が管理する仕事である。一つは、どこにも書いていないが、かなり退屈な労働環境である。結局、良心的兵役拒否者は、ロイヤルフォレストレンジャーの監督の下で、2つの森林キャンプのうちの1つで土木工事の20ヶ月の役を与えられた。勤続期間は軍内で最長の任期の18ヶ月を超えた。1つの例外を除いて、すべての良心的兵役拒否者は森林の維持、特に石の切り刻みに従事させられた。退屈な仕事と粗末な生活条件が非常に長い勤続期間と組み合わさって、兵役は本当に良心に反していると感じた人だけがこの条件でも、その選択を選ぶことを確実にすることを意図していた。

なお、法律ができるまでの議論の大きな課題は「良心的」の意味と判断方法であった。まずは、思想的な理由を認めるわけではなかった。したがって、例えば去る人は共産主義者なので資本主義の戦争を戦わないような論は認めなかった。それ以外の人々の本音を把握するために、兵役検査を受ける4週間前に、拒否する旨を連絡しなければならないという条件ができた。その時間の間に、診断責任者は、拒否したい者のことを吟味した。例えば、宗教的な反戦立場に立つと強調したものならば、彼の所属する教団の指導者と連絡を取って、彼の今までの発言や行動を調べるようになった。Larsenの論文によると、1918年から1933年の間に、拒否する人はほとんどおらず、または拒否した人のうちにしばらくキャンプで時間を過ごしたと、兵役に切り替えた人もいた。仮説的に、理由を二つ述べていた。一つは、先に紹介した条件の上に拒否したい人があまりなかった。一つは、拒否しようとするものは、容認できる理由で彼は拒否した場合に、診断をうける時に兵役に不要と判断の傾向があったため、拒否者数は低かったとの推論がある。

Larsen は残った記録を調べたが、抜けたところもあったから、決定的に結論はできなかった。最初から、拒否者のキャンプをシーランド島の Gribskov（グリップスゴ）とユトランド半島の Kompedal（コンペダル）という二か所で用意したが、あまりに人数が少なかったわけで、コンペダルの方を 1920 年代に閉止された。

しかし、1933 年に有効になった「良心的兵役拒否者の法」を改めた法律「Lov nr. 187 af 20. maj 1933 om værnepligtiges anvendelse til civilt arbejde」において、拒否者の奉仕時間は 20 ヶ月から 15 ヶ月に短縮したから、人数が増えた（Larsen 1977）. 奉仕時間を短縮する理由は、1917 年以来、最も長い兵役がだんだん短くなったが、良心的兵役拒否者の勤務時間は変わらなかった。1933 年に普通の兵役期間は 5 ヶ月とブラッシュアップ訓練は 2 回 28 日でした。1967 年に国防省の委員会は、良心的兵役拒否の歴史の調査を含む報告書を発表した。ここで委員会において、拒否者の勤務時間の関係性や基準は、法で定めなかったと指摘していた（Betænkning 458, 50 頁を参照）。勤務時間はそのあと、兵役期間に合わせて調整されたが、2009 年までは、兵役期間より長かった。

第二次世界大戦のあとに良心的兵役拒否者数が増えた。思想的な理由で、特に社会主義もしくは共産主義に賛成したから、軍に関わりたくないという理由で、キャンプに行ってしまった人たちが多くなってきた。ユトランド半島で一時的に使った Kompedal キャンプの代わりに Oksbøllejren「オクスボルキャンプ」が新しいところであった。ユトランド半島の西海岸にある場所は、第二次世界大戦の終戦前から、ヒトラーの命令でドイツ人の難民はデンマークに送られて、一部はドイツ軍が管理したキャンプに入った。終戦後から 1949 年まではそのまま使えた。そして難民はドイツに帰った後に、デンマーク政府はキャンプを完全に解体したかったため、兵役拒否者の仕事は「2 万 2 千平米の馬小屋と小屋を解体すること、8 千平米のレンガの建物を解体してその約 1500 万個レンガをリユースできるように一個一個を手で整えること、または、55 キロメートルの水道と下水道を抜け、6 万平米の道と 4 万平米の床や土台とそれ以外の 3 万平米の建物を解体する事であった。最後に全面を元のように植林する仕事は拒否者の奉仕にした。10 年間かかった（Jensen 2017）。

良心的兵役拒否者としてこの作業に参加させられた一人は、平和主義者で有名な作家 Carl Scharnberg（カール・シャンベア、1930-95）であった。彼はその体験と感じた不満を Militærnægterlejr eller galeanstalt?「兵役拒否者キャンプか気違い病院か」の文でまとめて *Pacifisten*『*平和主義者*』に執筆した（Scharnberg 1956）。1954 年から、良心的兵役拒否者の奉仕時間は 22 ヶ月だった。タイトルからでもわ

かるように、シャンベアにとって、当時の政策が拒否者の人生を無駄にしてとても許しがたい機会だと批判した。または、システムの係員は兵役検査の時から拒否者を無責任のバリアのように扱っていたと報告した。機械でやれば半日もかからない仕事を十人に数日間を与え、一方はノルウェイのように拒否者が自然や人工災害の犠牲者を助ける提案を拒否するシステムだ、と強調した（Scharnberg 1956）。

> キャンプの状況を描いた。「想像してみてください。比較的に広く清潔な部屋では、8つの衣類棚と4つの二段ベッドが、部屋の真ん中にあるテーブルといくつかの椅子とスツールを囲んでいる。部屋の住民は、20～25歳の若者8人である。信仰がある人々で、それぞれの信仰だ。まずは、エホバの証人が2人いる。大西洋のかなたから来た宗教を信じるようになったハンサムな若い農家たちである。彼らは、人を殺したくない―殺害すべき人々は、「血の復讐をする者」が地に戻るときに殺害される（民数記35：19を参照）。
>
> 三人目は、牧師の息子である。バプテスト。彼も人を殺したくない。穏やかなキリスト教で邪悪を終生させたい。
>
> 平和主義者は2人である。「二度と戦争がない」［Never War Again］ことである。ソーシャル・ジャスティス、武器の代わりに寛容。
>
> 大工さんは社会主義者である。労働者階級が皆の支持がある新インターナショナルは出兵の命令が来ると、家に帰れる。
>
> そして画家一人がいる。王立美術アカデミー卒生。彼は［アメリカの小説家、劇作家ウィリアム・サローヤン（William Saroyan 1908 – 1981）］の「あなたたちの戦争は自分で戦いなさい」を信じている。
>
> 八番目の人は25歳で若干年寄りである。［戦争中の］レジスタンスに参加した人だが、終戦後の［社会］展開は彼の幻想をすべて殺した。今、彼は希望がない兵役拒否者である。」（Scharnberg 1956、ヘアマンセンの訳）

1959年にオクスボルキャンプの整備が終わったあと、Kompedalキャンプが復活した。収容数は122人であった。当時の徴兵者数は1～2万人であったが、シャンベアが描いた組織的な圧力は一般市民の軽蔑な扱いと冷戦の雰囲気と合流もしたし、一方、毎年公開された新作映画は、人気俳優で徴兵の時期が男性を熟成する楽しい時間として描写した。しかし、ベトナム戦争はデンマーク人の中でも懸念され、1968年の大学運動はデンマークでも激しかったので、徴兵拒否者はます

ます増えた。1970年にそのうちだれかがKompedalを放火して、森のど真ん中にあったキャンプは全面的に燃えてしまった。直接の関係はなかったが、同時に、兵役拒否者はキャンプに入る代わりに公立の老人ホームや図書館で、またはシャンベアらが20年前から提案したように認定したNGOのために働くことができるようになった。それから、認定された施設やNGOの数は増えていった。背景には、1972年に歴史的に数が一番大きい4600人が兵役を拒否した。キャンプに収容できなかったし、コストも高くなってきた。

最初に述べた自分の徴兵役体験に戻るが、結局筆者の番号は「自由番号」“frinummer”であった。1980年に18歳の男性デンマーク人は37863人であった。そのうち、七割が兵役に相応しかったと推論できると思う[6]。当時の軍隊は、新兵役者数の必要性はわからないが、若者同士の間は「18歳の半分ぐらいだろう」といった。しかし、先に書いたとおり、ボランティアなどで必要な新兵を得られるのが今と同様にその時も基本であった。当時のデンマークの経済状態で、若者の失業率は一割ぐらいともわかっている。軍隊に入ると、教育を受け、運転免許を貰え、または軍隊の経験は履歴書に残しておくなどのメリットは多い。積極的に入った人のほうが、軍のどこの部隊に所属するかを選択できた。以上の理由で、1980年代に筆者のような兵役に対して消極的なものはあまり必要ではなかったと思う。ともかくも、第14000何番の番号は平和時期が続く限り、二度と軍とかかわらないとの意味で「自由番号」であった。国の予算で、国内や海外でNGOを体験して平和のために活動したかった筆者にとって、ちょっと残念な結果であった。その後、YWCAの社会福祉施設で一年間ボランティアとして共働し、アムネスティ・インターナショナルで同じようにボランティア活動として印刷とファンドレーシングを5年間やり続けた。1980年頃に、アムネスティは例年的に兵役拒否者を一人か二人雇っていた。「雇用」というのは、その人の給料は殆ど政府に負っていたが、平和を実現するための仕事は組織が計画したということであった。

同級生の友人は兵役拒否者だが、1981年はキャンプに入れられてしまった人は殆どなかったと彼が教えてくれた。彼自身は、ある子供むけの劇団で良心的兵役拒否の勤務期間を過ごした。1984年に、最後に残ったGrib Skovキャンプは廃止された。

それから現在まで、兵役拒否者数は、だんだん減ってきている。デンマーク人の中で平和主義者の実数が減っているかもしれないが、それより、主に三つ理由があると思われる。

第一は、いわゆる国際化である。デンマークは1948年にUN（国連）の同盟国となって、1949年にできたNATO（北大西洋条約機構）の最初からの同盟国のひ

とつで、1973年からEEC（欧州経済共同体）の同盟国で、1991年からEU（欧州連合）の同盟国である。EEC以外、各団体は平和を守るために軍の組織を経営する。デンマークは特に国際連合平和維持活動と積極的に協力して、一方は国民投票で受けたマーストリヒト条約の上でEU軍のメンバーではないと決めた。NATOとの付き合いは、少し複雑である。特に1982～88年の間に、保守派の少数党政府はNATOの核兵器再軍備[7]を賛成したかったが、国会の多数はその政策に反対したため、結局政府はNATOでデンマークの懸念を脚注で記録してもらわないといけなかった（デンマーク語：Fodnotepolitikken 脚注ポリシー）。2001年のアフガニスタン戦争と2003年のイラク戦争が始まってからデンマークはNATOの一員として兵を派遣した。ここで1990年代に起こった第一次湾岸戦争とユーゴスラビア紛争の影響は論じないが、そこから出た経験はデンマークの「守備」概念を変えたといえる。2001年2月27日に可決された守備法はそれを反映していた。法に定めたデンマークの守備の六つ目的が 1）NATOの不可欠な部分としての紛争予防、危機管理およびNATO領土の防衛。2）デンマークの主権の侵害と権威の任務を確認し、拒否する。3）信頼醸成と安定促進の任務、ならびに防衛分野における対話と協力、4）紛争予防、平和維持、平和構築、人道主義および他の同様の任務、5）その他のタスクも、6）デプロイメント能力を維持する（Larsen 2019, 注1）。目的の順序は重要であり、1909年に可決した中立性と国境防護を狙った守備法との性質は違う。それと武器の進化に伴うコストや高度な技術レベルは兵士に必要な訓練と覚悟を変えた。従って、徴兵役の秩序も変わった。当時の徴兵訓練時間は9ヶ月だったが、改善の上で、徴兵はまず4ヶ月間の基本訓練を受け、そのあとは、本人の希望と能力あるならば、部隊と武器によって数ヶ月特訓練が必要だ。「覚悟」というのは、海外の戦争で展開することができるということだ。

付け加え：2021年7月の講演会で上記の問題を詳しく論じているHenning Sørensen（2000）Conscription in Scandinavia During the Last Quarter Century: Developments and ArgumentsとElisabeth Braw（2019）*Comparative National Service. How the Scandinavian Model Can Be Adapted by the UK* の論文を紹介したが、良心徴兵役拒否のことは論じていないのでここでは省略する。

第二の理由は第一と関連するが、政治家と軍人の中で徴兵を基にする軍より、完全にプロフェッショナル軍のほうが時代に合理的であると論じている人がいる。

**表 1 :1995 ～ 2020 年後半の徴兵検査の結果より**

人数（パーセント）

| | 優 | 可 | 不可 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 2020 年後半 | 2,807（19.87） | 384（2.72） | 10,935（77.41） | 14,126（100） |
| 2020 年前半 | 913（15.54） | 114（1.94） | 4,849（82.52） | 5,876（100） |
| 2019 年後半 | 8.194（45.24） | 898（4.96） | 9,022（48.81） | 18,114（100） |
| 2019 年前半 | 8,323（45.76） | 1,008（5.54） | 8,858（48.70） | 18,189（100） |
| 2018 年後半 | 8,843（46.29） | 1,020（5.34） | 9,242（48.37） | 19,105（100） |
| 2018 年前半 | 8,263（45.86） | 937（5.14） | 8,937（49） | 18,237（100） |

**Forsvarsministeriet, Personalestyrelsen 2021b**

20 年前から続いた議論だが、2021 年にも徴兵役はある。ただし、すでに 1980 年代で確認できた傾向は強くなったので、2020 年に軍は僅かな 3000 人の徴兵を必要とした。99.9％は自発的に入りたかった者で埋まった。

なお、図 1 はデンマークの防衛省が 2021 年に発表した徴兵検査統計の一部で分かるように、2020 年の検査された男子は例年よりほぼ半分ぐらいしかいなかった 20002 人だった[8]。そのうちに兵役調査で「優」と「可」と判断されたものは 3720 と 498 合わせて 4218 人であった。2020 年前半の検査された人はコロナ過の影響で非常に少なかったかもしれませんが、「不可」の背景に何があったかはわからない。

第三の理由は、男女平等を求める世間の影響で、1960 年以降からデンマークの女性に守備義務の代わりに守備権利が与えられた。希望する女性は現在男性徴兵と同じ条件に彼らと変わらないように担うことができる役はだんだん増えてきた。図 2 で分かるように、2020 年に軍の各支部の新入徴兵の 4 分の 1 が女性であった。

以上の理由で良心的徴兵拒否者数は年ごとに減っていきます。それ以外、最初に紹介した防衛省の若者への宣伝や資料 1 と 2 に紹介する徴兵拒否の志願書の文

**表 1 : 2020 年、男女別に軍の各支部の新入徴兵**

| 年 | 性 | 陸軍 | 海軍 | 空軍 | 合計 | パーセント |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2020 年 | 男 | 3,344 | 132 | 117 | 3,593 | |
| | 女 | 935 | 50 | 43 | 1,028 | 22,20 |
| | 合計 | 4,289 | 182 | 160 | 4,631 | |

緊急隊に教育終了した徴兵者数は 429 人でした。そのうちに 17.95 パーセントは女性でした。

**Forsvarsministeriet, Personalestyrelsen 2021a を参照**

言に含んだ偏見的・軽蔑的な扱いも影響はあると思われる。拒否者のうち兵役が始まってから拒否するものが何人いるかはわからない。

**資料1**

| | |
|---|---|
| Begrundelse for ansøgning om overførsel til militærnægtertjeneste før fordeling: | 配布前の軍の良心的兵役拒否者 |
| Da militærtjeneste af enhver art er uforenelig med min samvittighed, og da tjeneste i Beredskabsstyrelsen strider mod min samvittighed - idet det vil indebære at jeg bliver en del af et samlet totalforsvar, som kan blive sat ind til beskyttelse af personer og materiel i tilfælde af katastrofer eller lignende hidrørende fra blandt andet krigshandlinger eller terrorvirksomhed mod Danmark - ansøger jeg om overførsel til militærnægtertjeneste. | いかなる種類の兵役も私の良心とは相容れないものであり、デンマーク救急隊での兵役は私の良心に反するものであるため、特にデンマークに対する戦争行為やテロ活動から生じる災害などの際に、人や財産を守るために使用される総合的な防衛手段の一部となることを意味するため、私は良心的兵役への移行を希望します。 |

https://karriere.forsvaret.dk/globalassets/pdf/militarnagter/ansogning-indenfor-8-ugers-fristen.pdf（Viewed 2021/7/19） 2021年現在デンマークで使っている良心的兵役拒否者の願書の文言である。以前、兵役検査「Session」という健康的精神的に平時に相応しいと判断するForsvarets Dag（防衛の日）の検査後が、どこで活躍しなければならないと決め付ける（配布）前に提出できるものである。

**資料2**

| | |
|---|---|
| 1. VÆRNEPLIGTSTJENESTEN: CIVILT ARBEJDE – MILITÆRNÆGTERTJENESTE | 防衛義務役（奉仕）：<br>市民［非兵］的働き―兵役拒否者の奉仕 |
| Grundlovens § 81 fastslår følgende om værnepligt i Danmark: "Enhver våbenfør mand er forpligtet til med sin person at bidrage til fædrelandets forsvar efter de nærmere bestemmelser, som loven foreskriver." I Danmark har der siden 1917 været en civilværnepligtslovgivning, der har indeholdt de "nærmere bestemmelser" om militærnægtertjenesten. Baggrunden for, at du er blevet militærnægter, er lov om værnepligtens opfyldelse ved civilt arbejde § 1: "Værnepligtige, for hvem militærtjeneste af enhver art efter foreliggende oplysninger må anses for at være uforenelig med deres samvittighed, kan af forsvarsministeren fritages for militærtjeneste mod at anvendes til andet statsarbejde, der dog ikke må tjene militære formål." Lov om værnepligtens opfyldelse ved civilt arbejde er den væsentligste del af det lovgrundlag, der ligger bag den værnepligtstjeneste, du skal i gang med. | デンマークで行う防衛役に関して、憲法第81条は「＊武器を扱える男にはみんな、法律で定めるように身体的に祖先の国を守る義務がある。」1917年以来デンマークでは、市民防衛義務法が兵役拒否奉仕のことを詳しく定めている。あなたは兵役拒否者になることができる理由は市民的な働きで満たす防衛義務奉仕法の第1条「防衛義務を負いながら、どんな形があっても兵役は本人の良心と一致できないと判断される場合に、防衛大臣はそのものが軍事的な目的のない国の仕事を受ける代わりに、兵役から免除できる」と。法律的に、あなたはこれから始まる防衛義務奉仕の最も重要な定めは、この市民的な働きで満たす防衛義務奉仕法である。<br><br>＊「武器を扱える男」は直訳である。意味は「元気である成人男性」 |

（https://karriere.forsvaret.dk/globalassets/pdf/militarnagter/militarnagterhandbog-december-2018.pdf 良心的兵役拒否者のため手引き　デンマーク防衛相、人事課、2018年12月ウェブ版　2021年9月6日に閲覧）

〈註〉

1 将来の研究のために、キーワードをデンマーク語と発音に近いカタカナの順番で記録する。英訳すると、英丁のニュアンス差はなくなるので、英語をつかってない。

2 デンマークの領土は時代とともに変わってきているが、1200年頃は当時の領土に主に貿易の特権都市は27都があった。その数は、1536年頃は85都市に増えた。1801年に73都市が残った。1801年にコペンハーゲン市の10万人以外の町の人口は平均に1398人で二番目に大きな町オデンセの5872人から僅か数百人までです。*Degn (1987) tabel 1; folketællingerne 1769, 1787 og 1801*

3 当時デンマークは基本的にルーテル教会以外の教派や宗教をゆるさなかった。例外は、王に役に立つ外国人がいれば、その人は自分の宗教を守る許可を与えられた。特に、ユダヤ人、メノナイトまたはフランスから亡命したユグノーがあった。

4 1850年はデンマークの大人男の平均身長は166㎝であった（Ejsing 2004参照）懲役が駄目の理由は、不名誉であるから祖国を守るにふさわしくないである。

5 “Although he started his career as a Radical Liberal leader by opposing the Danish Defence Law of 1909, Dr. Peter Munch became the Danish Minister of Defence from 1913-1920 and Foreign Minister from 1929-1940. This apparent contradiction is analysed here in coherence with his general opinion on Danish defence and foreign policy covering the period 1900-1910. Dr. Munch pointed out that the greatest danger to the country was a future (primarily naval) war between England and Germany, in which the Danish straits might constitute an important factor. He claimed, however, that the strategic importance of these areas was diminishing, and thus that the key to Danish neutrality lay in German confidence in the credibility of the declared Danish neutrality. This credibility could only be obtained if Denmark renounced all military arrangements over and above a minor frontier guard.

Dr. Munch regarded a Danish military defence against a German attack as a total futility and maintained that the only possible defence was a cultural one based on a strong and true national feeling. Later, during the First World War, Dr. Munch revised some of these ideas; together with the Foreign Minister, Erik Scavenius, he devised a new concept of neutrality which made it possible for the Danish government to conduct a pro-German foreign policy within the framework of classical neutrality. The implementation of this policy demanded some military forces, however, though less than what the Conservatives called for.” Staur 1982, 121 English Summary.

6 詳しい数字は見つからなかったが、1995年～2021年の兵役調査結果を見ると、1995年に33472人のうちに19073人（57％）が無条件に相応しい、4498人（13％）は条件付きで相応しい1995年に対して、2018年の363030人のうちに、16517人（46％）が相応しい・1906人（5％）は条件付きで相応しかったので､1980年には合わせて70％を使えることができたと思う。（Forsvarsministeriet 2021）。なお、昔の身長の問題は、肥満（BMI）の問題に変わったようだ。

7 冷戦でワルシャワ条約機構が西ヨーロッパの国境近くに中距離ミサイルを準備したにたいして、NATOはデンマークや北ドイツで同じような核兵器を準備しようとした。拙者を含めて1980年代前半の平和運動のデモや座談会に参加した人が大勢で、この政策に反対した。

8 デンマークの統計局によると、2020年の18歳の男子は34728人であった。Danmarks Statistik 2021.

〈参考文献〉


・Bekendtgørelse af værnepligtsloven.〈条例〉LBK nr 225 af 13/03/2006. Forsvarsministeriet. https://www.retsinformation.dk/eli/lta/2006/225 (Viewed 19 June 2021).

・Bekendtgørelse om civil værnepligt.〈条例〉BEK nr 995 af 04/10/2008 Forsvarsministeriet. https://www.retsinformation.dk/eli/lta/2008/995 (Viewed 19 June 2021).

・Betænkning nr. 458〈白書〉. 1967. Civil værnepligt. Betænkning afgivet af det af Indenrigsministeriet den 18. juni 1963 nedsatte udvalg. Udvalgsformand, Aa Munkgaard.

・Borger.dk. 2022. Forsvar og beredskab. https://www.borger.dk/politi-retsvaesen-forsvar (Viewed 19 June 2021)

・Braw, Elisabeth. 2019. *Comparative National Service. How the Scandinavian Model Can Be Adapted by the UK*. (RUSI Occasional Paper). October 2019. ISSN 2397-0286 (Online). https://rusi.org/sites/default/files/201910_competitive_national_service_web.pdf (Viewed 19 June 2021)

・Christensen, Niels Finn. 2015. "Krigen om forsvaret" *Danmarkshistorien.dk*. https://danmarkshistorien.lex.dk/Krigen_ om_forsvaret (Viewed 12 September 2021)

・Danmarks Statistik. 2021. www.statistikbanken.dk/FOLK1A 23-9-2021 (Viewed 23 September 2021).

・Foreningen for konsekvente Antimilitarister. 1918. Til Protest mod den civile Værnepligt. Viewed at Det kongelige Bibliotek http://www5.kb.dk/pamphlets/dasmaa/2012/jul/smaatryk/object87615/en/ on 19 June 2021).

・Forordning om en Nye Land-Milices Indrettelse i Dannemark *4. februar 1733 in Kong Christian den Siettes allernaadigste Forordninger og aabne Breve (1732-1733).* https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale /stavnsbaandsforordningen-af-4-februar-1733/ (Viewed 19 June 2021)

・Forsvaret. 2022. "Karriere" https://karriere.forsvaret.dk/ (Viewed 19 June 2021)

・Forsvarsministeriet, Personalestyrelsen. 2021a. HR i tal – Værnepligtige https://www.forpers.dk/da/hr-i-tal/varnepligtige/ (Viewed 22 July 2021).

・____. 2021b. Statistiske Oplysninger, Udfaldet, gennemsnitshøjden og BMI (body mass index) på Forsvarets Dag / Sessionen. https://forpers.dk/globalassets/fps/dokumenter/2021/-statistik-forsvarets-dag-sep-2021-.pdf (Viewed 22 September 2021)・Henningsen, Peter. 2020. MYTE: Gjorde stavnsbåndets løsning i 1788 de danske bønder frie? https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale/myte-gjorde-stavnsbaandets-loesning-i-1788-de-danske-boender-frie/ (Viewed 19 June 2021).

・Jensen, John V. 2017. Militærnægterlejren i Oksbøl, 1949-1959. https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale/militaernaegterlejren-i-oksboel-1949-1959/ (Viewed 19 June 2021).

・Larsen, Sven Elling. 2019. "Er nationale- og internationale operationer tidssvarende begreber?" Det Krigsvidenskabelige Selskab. https://www.krigsvidenskab.dk/emne/er-nationale-og-internationale-operationer-tidssvarende-begreber (Viewed 23 Sep. 2021)

・Larsen, Sven Erik. 1977. *Militærnægterproblemet i Danmark 1914-1967 med særlig henblik på lovgivningen*. (Odense University Studies in History and Social Sciences, Vol. 39). Odense: Odense Universitetsforlag.

・Lov af 13. juni 1912 om Værnepligt. http://www.salldata.dk/love/love /Vaernepligtslov_1912.pdf (Viewed 19 June 2021).

・Lov om almindelig Værnepligt for Kongeriget Danmark, 12 februar 1849. Departementstidende no. 9 og 10 udgivet den 17de Februar. 1849. s. 129-145. Reproduced at https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale/lov-om-almindelig-vaernepligt-for-kongeriget-danmark-12-februar-1849/ (Viewed 19 June 2021).
・Lov om Værnepligt, 6 marts 1869. https://www.h58.dk/Mil /Vaernepligtslov_1869.pdf (Viewed 19 June 2021).
・Nissen, Keld. 2017. 100-året for militærnægterloven: Da 491 præster gjorde det lovligt at sige nej til våben. Kristeligt Dagblad 09 december 2017. https://www.kristeligt-dagblad.dk/danmark/da-491-praester-gjorde-det-lovligt-sige-nej-til-vaaben (Viewed 19 June 2021).
・Nørgaard, Anne Engelst and Helleberg, Naja Schack. 2015. Indførelse af almindelig værnepligt, 1848-49. *danmarkshistorie.dk https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale/indfoerelse-af-almindelig-vaernepligt-1848-49/* (Viewed 19 June 2021).
・Scharnberg, Carl. 1956. Militærnægterlejr eller galeanstalt? *Pacifisten marts 1956*. https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale/carl-scharnberg-militaernaegterlejr-eller-galeanstalt-i-pacifisten-marts-1956/ (Viewed 19 June 2021).
・Staur, Claus. 1982. "P. Munch og forsvarsspørgsmålet ca. 1900-1910" *Historisk Tidsskrift*, Bind 14. række, 2 (1981 - 1982) 1, pp. 101-120. https://tidsskrift.dk/historisktidsskrift/article/view/52362/69176 (Viewed 12 September 2021).
・Sørensen, Henning. 2000. Conscription in Scandinavia During the Last Quarter Century: Developments and Arguments. *Armed Forces & Society*, Vol. 26, No. 2, Winter 2000, pp. 313-334 https://doi.org/10.1177/0095327X0002600207
*https://danmarkshistorien.dk/vis/materiale/indfoerelse-af-almindelig-vaernepligt-1848-49/* Viewed 19 June 2021.